

「環境教育揭示用教材 第2号」の補助資料の活用例

児童・生徒の持続可能な社会を構築していくための資質・能力の更なる育成を図ることを目的として作成した「環境教育揭示用教材 第2号（下の二次元コード・リンク参照）」の内容を、より深めるための補助資料・活用例・ワークシートです。本補助資料は、一人1台端末を活用して、リンク先のホームページ等から情報を収集し、収集した情報を基に話し合いを行う等、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができます。

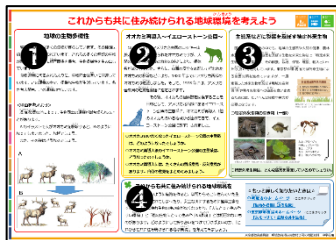
補助資料の活用例

これからも共に住み続けられる地球環境を考えよう

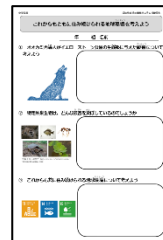
揭示用教材



補助資料



ワークシート



- ① **ねらい** 身近な生物と人間が共存する持続可能な自然環境を保全しようとする意欲を育成する。また、生物多様性の意味を理解させ、生態系を保全しようとする態度を育てる。
- ② **環境教育における主な内容 (ESDの構成概念)** 自然や生命の尊重（多様性・公平性）、生態系の保全（相互性、責任性）
共生社会の実現（多様性、連続性）
※環境教育指導資料 P8、P9 参照（二次元コード・リンク参照）
- ③ **関連するSDGsの目標** 【SDGs 11】住み続けられるまちづくり（小学校・中学校共通テーマ）
【SDGs 14】海の豊かさを守ろう、【SDGs 15】陸の豊かさを守ろう

④ 主な活動

○主な活動	□教師の支援 ●留意点	◆補助資料等との関連 ■関連リンク
○補助資料①の「理由を考えよう」を見て、食物連鎖について考える。 ○補助資料②を見て、イエローストーン公園の生態系の変化を考える。また、オオカミ再導入についての自分の意見をまとめ、話し合う。 ○補助資料③を見て、特定外来生物について知る。 ○特定外来生物について、補助資料④東京都環境局のホームページ「気をつけて！危険な外来生物」等で調べる。 ○補助資料④環境省のホームページ「生物多様性に迫る危機」を見て、生物多様性について考える。 ○身近な生物と人間が共に住み続けられる地球環境について話し合う。 ○気付いたことや感想を発表する ※話し合いや発表の場面では意見交換やブレゼンテーションができるソフトやアプリを活用した授業展開が考えられる。	●環境破壊による生物多様性への影響に気付かせる。 ●駆除などの人の活動による生物多様性への影響に気付かせる。 ●保全活動には、賛成・反対の意見が分かれているものもあることに気付かせ、多面的な視野で考える必要があることを理解させる。 □環境省「侵略的な外来種」を提示し、外来種について確認した後に、特定外来生物について説明をする。 ●特定外来生物の被害を防ぐ対策についても調べさせたり、考えさせたりする。 ●特定外来生物を駆除するという考えについては、特定外来生物の命についても考えさせる。 ●生物多様性の重要性や生物多様性を保全する意味を考えさせる。 □必要に応じて、環境省「いのちがつながっている」を提示し、生物多様性の重要性等を確認する。 □身近な生物と人間が共存する持続可能な自然環境を保全するために、多面的な視野で考える必要があることに気付くよう、活動を振り返らせる。	◆補助資料① ◆環境教育指導資料 P6 1～ ◆補助資料② ◆ワークシート① ◆補助資料③ ■環境省「 侵略的な外来種 」 ◆補助資料④ ◆ワークシート② ◆補助資料④ ■環境省「 いのちがつながっている 」 ◆ワークシート③

※東京都教育委員会ホームページで、本補助資料を公開しています。環境教育指導資料及び環境教育揭示用教材も公開しておりますので、併せて御活用ください。

補助資料
本資料



環境教育指導資料
教師用



環境教育揭示用教材
児童・生徒・教師用



かんきょう
これからもともに住み続けられる地球環境を考えよう

年 組 名前 _____

① オオカミ再導入がイエローストーン公園の生態系に与えた影響について考えよう



② 特定外来生物は、どんな被害を及ぼしているのでしょうか



写真5点：環境省 (www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html)

③ これからも共に住み続けられる地球環境について考えよう

